# 平成２８年度第１回まち・ひと・しごと創生審議会
## ＜議事概要＞

日　時：平成２８年６月２３日（木）　午前１０時～１２時
場　所：白井市役所　３階会議室２
出席者：
　　高尾公矢委員、宇賀義則委員、志摩龍雄委員、武田一登委員、返田博昭委員、長野和夫委員
　　６名
　　【事務局】
　　高石企画政策課長、村越主査、冨田主査補
傍聴者：５名

**１　開会**

（事務局）

・平成２８年度第１回まち・ひと・しごと創生審議会を開催いたします。

**２　会長挨拶**

（会長）

・大変お忙しいところ、また足元の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。

・まち・ひと・しごと創生に関する動きが始まりましてから、早いもので、１年が経過します。この間に白井市も多くの取り組みを行ってきたところですけれども、これらの取り組みをきちんと評価して、次のステップに生かしていくことが必要と考えます。

・本日は地方創生先行型交付金事業の効果検証について、審議をすることとなっています。白井市のこれからのステップアップにつながるように審議いただき、審議会としての意見をまとめていきたいと思います。

・委員各位におかれましては、十分にご理解の上、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

３　議題

・白井市附属機関条例第６条第１項により会長が議長を務め議事進行

（1）地方創生先行型交付金事業の効果検証について

【事務局説明】

・白井市のまち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた事業のうち、平成27度中に地方創生先行型交付金を活用して実施した９事業について、効果を検証いただくものです。

・既に担当課での評価を終えていますので、この審議会で評価いただき、その結果を、内閣府に報告させていただきます。

・評価の視点は、ＫＰＩ（重要業績評価指標）の達成状況、この事業が地方創生に有効であったか、有効でなかったかという点、事業のいい点や悪い点、改善策を重点的にご審議いただきたいと思います。
・各事業ごとに、事務局から説明した後、委員同士で議論していただきたいと思います。

①白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業
【概要】
事務局から白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】
（委員）
今後、どのように着実に実行して、成果を上げるかというのが大事です。非常に立派なものだと思います。これがあれば大丈夫だと思います。
（委員）
先ほど、事務局からあったように、27年度の10月に策定が完了ということで、その他の自治体とやっぱり、自治体よりか早い段階でできていると思います。その結果、年度中に交付金をいただくなど、先手先手で動いており、非常に評価できると思います。
あと１点、お伺いしたいのは、今後の方針の中で 、国の総合戦略の改訂を踏まえてとありますが、あり得ることなんですか。
（事務局）
国でも、事業の進捗を踏まえて、毎年総合戦略を改訂するということで、既に改訂版が策定されている状況です。今後、国の動向を踏まえて、どんな分野の取り組みが、今後白井市に必要になってくるかというのも考えながら、必要であれば改訂していくということになります。

②農産物販売拠点機能強化事業
【概要】
事務局から農産物販売拠点機能強化事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】
（委員）
移動販売は、農産物だけを移動販売されているのか、いわゆる日用品のようなものも販売されているのか。
（事務局）
基本的には、農産物です。若干、加工品を販売しています。日用品は販売していません。あくまでも、やおぱぁくに置いている商品を販売しています。

（委員）

販売拠点をつくるという機能強化は、大変いいことだと思いますが、売上が当初の目標までいかないというのは、品物が足りないのか、買う人が少ないのか、施設的な問題があるのか、その分析をして、どう増やすかというところをもう少し明らかにする必要があると思います。

（委員）

当初、予算の範囲で、軽トラックを改造して移動販売車をつくりましたが、そうすると、やはり種類が限られます。消費者のニーズに合った物を提供できているかというところが、ちょっと疑問が残ります。品物が足りなくなるとその都度、やおぱぁくに戻って、補充という形をしているみたいですが、品物の種類をもう少し豊富にしたほうがいいと思います。あとは、30年度の加工場についても、消費者のニーズに合ったものをつくれるのかというところが課題と思います。

（委員）

私もやはり、ニーズに合ったきめ細やかなサービスが必要だと思います。私の住んでいる桜台は、また近くに、新しい大型スーパー「ヤオコー」ができて、ナリタヤとか、イオンとか、中央駅の周辺に五つ大型スーパーがあり、過当競争です。こういうところで移動販売車を回しても、別に意味がないと思います。今、白井で高齢者が多いとか、スーパーが少なく、移動販売のニーズがある地域は、どの辺ですか。

（事務局）

今、移動販売は、南山地区、池の上地区といった白井駅の周辺地区、冨士地区が回っている箇所数としては多くなっています。

（委員）

ニーズはあるんですよね。

（事務局）

地区に説明に行って、移動販売車に来てほしいと手が上がったところに行っていますので、ニーズはあると思います。

（会長）

そういう手が上がらないところでも、積極的に行くという姿勢が重要だと思います。それと、利用者の視点を重視すること、例えば、いい製品をできるだけ安価に売るなどといったことが必要だと思います。

（委員）

短期的に買うのではなく、長期的にコンスタントに買ってくれる仕組みも必要だと思います。そのためには、やはり種類が大事だと思います。

（委員）

この事業は初めてのケースで、経験不足等もあるかと思います。これは大事な事業なので、今後、関係者の意見を集約をして、どう発展させるか、もう少し長い目で見ていくという方向がいいと思います。

（委員）

今後の方針の中で、やおぱぁくのイベントに合わせたチラシの配布、移動販売者担当によるチラシの配布など、チラシに頼っている部分が非常に多いと思います。広報しろいに掲載していましたが、もっとうまく活用したほうがいいと思います。

イトーヨーカドーでは、正規の野菜のルートのほかに、地元産品のコーナーがあって、価格はちょっと高めですが、生産者の顔が見えて、より消費者に地元の商品だということで、安心感があり、購入意欲をそそるような形でやっています。例えば、さきほどお話にあったように、いろんなスーパーがある中でも、そこに店舗内店舗として置かせてくれないかという交渉も、次の段階として必要ではないかと思います。

（会長）

この事業は、もっと積極的な事業展開が必要だということ、改良の余地が十分にあると思います。審議会の意見としては、できるだけ今までの方法と違ったやり方で、改善していくということが求められると思います。何よりも、販売実績を上げていくということ必要という意見です。

③こども発達センター機能強化事業

【概要】

事務局からこども発達センター機能強化事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】

（委員）

当初の目標は達成していますが、白井市全体として、必要とする者がどれくらいいるのか、それに対して満足度がどうだったのかということも、必要と思います。

（会長）

今、いわゆる発達障害を持つ子供たちというのは、増えています。保育所や幼稚園では、専門の人がいないので、対応ができない状況になっています。そういう面では、このセンターは非常に重要な役割を担っていると思います。

こういう心理検査用品を整備していくことも非常に重要なことですが、実際にこういうものがどういうふうに実際に生かされているのかを、今後検討していく必要があると思います。

それと、専門性の高い分野のため、家庭だけではケアできない部分が非常に多いので、いかに専門の職員が関わりが重要な意味をもつと思います。

（委員）

例えば、集中力がないとか、薬を飲んで集中力を養いながら学校に通っている子供さんがいたりとか、発達に障害があるのではと悩んでいる人は結構多いと思います。そういった方々にこのセンターで相談できるということをもう少しＰＲすれば、白井に住んでいる方にとっては、すごくいい拠点になると思います。

（会長）
確かにそういう子供さんは、たくさんいらっしゃると思います。相談がしにくいとか、行きにくいとかいうことがあるので、できるだけ行きやすい環境づくりと、ＰＲしていくということが重要になります。
（委員）
専門家じゃないんですけれど、こういう発達障害というのは、外面からは、なかなかわかりづらいというのがあるんでしょう。成長してからも、職場なんかで発達障害じゃないかというようなケースがよくいわれます。専門的な対応が必要になるのですか。
（会長）
成長して大学生でも、今増えてきています。
（委員）
早い段階で、治療をしたほうがいいってことなんでしょうか。
（会長）
早い段階でケアしていくということが重要だと思います。
（委員）
こども発達センターの対応能力が、まだ十分じゃないということでよろしいんですか。全体のニーズには対応できないということですか。
（会長）
その辺の判断は難しいです。
（委員）
19名来たということは、それだけニーズがあるということだと思いますが、他市と比べてどうですか。
（事務局）
他市との比較はしていません。
（会長）
アンケートは、19名の保護者に対してアンケートをとったということですか。
（事務局）
そうではなくて、発達センターを利用されている方の保護者にアンケートをとっています。
遊びの幅が広がったとか、子供の興味が広がったということで、非常に満足しているというコメントが多かったです。
（会長）
今のところは、この事業自体は、効果を上げているという判断が出ています。これは継続していくことは間違いないが、今後の見通しとして、どういうことが必要なのか。潜在的なニーズを捉えていくということも必要だと思います。また、心理検査用品を使うことによって、どういうふうに、効果が上がったのかという、検証が必要だと思います。

④保育環境向上事業

【概要】

事務局から保育環境向上事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】

（会長）

私立保育園と学童保育所の全部ではなくて、特色のある保育、家庭的な環境づくりを行っているところへ補助金を出しということですか。

（事務局）

全ての私立保育園から事業計画を出していただいて、内容を審査して、その園が目指す姿に合致した取り組みであればということで、結果的には全ての園に補助しています。

（委員）

既存の私立保育園や学童保育として、充実強化を図るという点では、一定の評価ができると思います。ただ、白井市内で、そういう待機児童があるのかどうか。工業団地の実態調査をしましたが、やはり職場の近くに児童を預けられるところが必要だという声が結構あります。子供が病気になったとき、会社を休んで、自分の住んでいる所まで帰る必要があるからです。既存以外のところの充実強化ということを視野に入れた取り組みを期待したいです。

（会長）

待機児童はいますか。

（事務局）

４月に待機児童ゼロを達成しています。最新、１カ月くらい前のデータでも、まだぎりぎり待機児童はゼロという情報で聞いています。ただ、中には、希望の保育園に行けてないという人は何人かはあると聞いています。ただ、統計上のデータとしては、待機児童はゼロです。

（会長）

その辺は立派だと思います。松戸もゼロです。市川市は500人以上、千葉市はちょっと減ってきました。今、市川市が一番大変な状況に置かれています。積極的にやってますけど、新聞に出ましたように保育所をつくるときに、近所の反対で中止になった保育園があります。

行政によって、受け付けの段階で待機児童の定義が違うため、ゼロといっても、全ての人が希望どおり入れたかというと、そうでもないと。例えば、おじいさん、おばあさんがいたら、待機児童とは認めないというような市町村も今出てきています。

今、小規模保育所をいくつも設置しようというような動きが出てきていますが、０歳から２歳までしか対象にならないため、その後どうするかという問題が出てきて、それなら最初から保育所に入れたほうがいいという意見もあります。そこが、難しいところです。

（委員）

この特色のある内容の国際理解というのはどういうことですか。

（事務局）
　例えば、幼いころから英語に触れるとか、外国の文化に触れるとかによって、国際理解を推進していこうということです。
（会長）
　足立区ですごい英才教育をやっている幼稚園があって、倍率が非常に高くなって、中には足立区に引っ越してくる人までいるようです。
（委員）
　正しい日本語とか、日本の文化をもっと主に教えてほしいなと思います。
（会長）
　私立保育園や学童保育所に補助金を出して、国際理解や情操教育等を積極的にやってもらうような形をとったことは、評価も十分高いと思います。ただ、今後、各園が今までどおりにやれるかどうかという懸念があります。その辺は注視していく必要があります。
（委員）
　先ほどの全市立保育園に交付したと説明がありましたが、事業の内容によって強弱はつけたのか、一律なのか。
（事務局）
　基本的には、私立保育園１園に対して、上限100万円ということで、事業計画に基づいて趣旨に沿っている取組に交付しております。
（会長）
　教育費の100万円というのは大きいですよね。本来ならば、それを継続していくような仕組みづくりが必要と思います。
　今言われているのは、日本は幼児教育にお金をかけなさ過ぎで、保護者は保育料や授業料など教育費にお金がかかってくるため、これが子供を産まない原因になっているという意見もある。行政は積極的にお金を出していくという必要があるということです。
　子供にたくさんお金をかけると、社会に出たときに問題を起こさないし、税金も多く収めてくれる側になるという研究結果もあります。社会にとっては、プラスの面が非常に高いので、子供にお金をかけるということを考えていく必要があると思います。

⑤地域防災力向上事業
【概要】
　事務局から地域防災力向上事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】
（委員）
　今後の方針の災害時応援協定の締結の具体的な動きは、これからということでよいでしょうか。

（事務局）

災害時応援協定については、毎年度、締結に向けた動きを進めています。今まで締結したのがゼロということではなく、各自治体や企業と応援協定を既に結んでいます。災害時に備えて、協定数を増やしていきたいという方針です。

（委員）

白井工業団地協議会で、まだ正式な協定を結んでいませんが、何かあった場合でも応援対策はとられているし、協定を結んでいくということで議論しています。

（委員）

子育て世代へのＰＲを十分しているということですが、これは地区ごとに毎年行われているものですか。

（事務局）

市の防災訓練と、効率保育園における防災訓練に今回整備した機材を活用し、ＰＲしているということになります。

（委員）

防災資材で、子供や女性を対象にしたものを重点的に備えるというのは非常にいいことだと思います。私は仙台で、大震災に遭遇しましたが、一番困ったのはトイレです。特に水洗トイレしか知らない子供たちは、トイレに行けなくて、我慢して体調を壊したりしていました。ですから、簡易トイレを用意して、子供達に簡易トイレの使い方の訓練もした方がいいと思います。

（会長）

非常食を整備したということですが、どれくらい整備しているのでしょうか。防災計画の中で、何日間ぐらいとか。

（事務局）

防災計画に満たすような非常食は確保できていないと聞いています。食料は震災後３日間ということですが、それは確保できていません。非常食については、何年かたつと買いかえが必要で財政的な負担が大きいことが要因でもあります。市役所隣に総合公園が平成26年の４月にオープンし、新たな防災倉庫も整備し、炊き出しができる防災かまどや、マンホールを使った簡易トイレも備えています。ただ、正直なところ、全部確保できているかというと、そこまでは達していない状況です。

（会長）

それは非常に大きな課題ですね。

（委員）

非常食３日分ぐらいは一般家庭でちゃんと備蓄するように啓蒙したほうが良いと思います。

（事務局）

はい。自己防衛を図れるところ、隣近所で助け合ってもらうところといった自助共助ということも踏まえて、取り組みを進めているところです。

（会長）
防災に関しては、ボランティアの養成が非常に重要です。常総市の災害がありましたが、我々の大学は積極的に常総市に入ったんですが、地元茨城県の某大学などはほとんど入らなかったので、そういうことは必要だと思います。
（委員）
北総地域は震災に強いと住宅のＰＲにも書いてありますよね。
（会長）
直下型が来るという話もあります。
（委員）
やっぱり強いみたいです。東日本大震災で白井工業団地は無傷でした。やっぱり地盤がきちっとしてるということです。震災以来、白井市に来たいという企業は結構ありました。
（会長）
そういうのをＰＲしていく必要はあるでしょう。
（委員）
先日、茨城で地震があったとき、柏や松戸が震度４だったが、白井や印西は震度３でした。やはり地盤はいいのかなと思います。
（会長）
事業としては良好ということで、今後の課題は、備蓄品の整備、ボランティアの育成などが必要ということです。

⑥育苗センター事業
【概要】
事務局から育苗センター事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】
（委員）
対象が農家ですが、梨業組合に入っている方だけが対象でしょうか。
（事務局）
苗は希望する農業者に販売しますので、梨業組合には限らない梨農家全般ということで考えています。
（委員）
市内の梨農家ですか。市外は対象外ですか。
（事務局）
市外も希望すればいいんじゃないかという議論もありますので、販売の幅をどうするかということは今後決定するものと考えます。

（委員）

計画2,000本のうち、用意できたのが1,080本ということで、当然完売だと思いますが、ニーズ的には、あとどのくらいまでありそうな感じで捉えていますか。次年度の見込む目標が1,600本なので、大体このくらいと見込んでいるのかなとは思いますが。

（事務局）

今植えている数が1,080本あり、今年度から販売をスタートしますので、どのぐらいのニーズがあるかというのは現段階では分かりかねる部分があります。次年度以降の1,600本については、当初の見込みより若干規模縮小したため、センターの植えられる最大数が1,600本ということです。

（委員）

この評価はいいと思いますが、梨農家数が162から160に減って、これが平成31年まで本当に続くのかどうなのか疑問があります。梨農家の平均年齢や、これからのリタイアの見込みなどを見据えて、長期に構えていかないと農家そのものがなくなってしまうような状況になると困るなと思います。

（事務局）

目標は、農業者数を現状より減らさないというのが意気込みとしてあります。当然、高齢化・後継者不足というのは、非常に問題になってきています。そこで、今年度から少し力を入れて、白井の梨のブランド化を推進し、ブランド力が上がることにより、収入もある程度確保でき、それが後継者につながる可能性もあります。また、高齢化してくると、農作業の負担が大きくなってくるということがありますので、農業を手伝ってくれるボランティアの育成にも次年度以降取り組んでく予定です。労働力を補完しながら、稼げるという好循環を生み出して、農家数を維持していきたいと考えています。

（会長）

事業自体は、良好と評価できると思います。今後の課題としては、農家の高齢化、組合の実質の運営をどうしていくかということは、非常に大きな課題だと思います。こういうセンターはほかにもありますか。

（事務局）

梨に限っていえば、全国で二つです。非常にめずらしいものだと思います。

（会長）

だから行政が力入れていくというのも一つの考え方なのかもしれないですね。ただ、梨は、ふなっしーが先行して、梨といえば船橋だという印象なので、梨といえば白井なんだということをもっとアピールしていく必要があると思います。

⑦就労等マッチング事業

【概要】

事務局から就労等マッチング事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】

（委員）

イベントには白井工業団地協議会として参加しましたが、うまくマッチングして、非常に事業者に感謝されています。そういう点では評価も良いと思うし、今後も続けていけば、いい成果になっていくのではないかと１回目としての成果を見ています。

（委員）

ここに新聞折り込みチラシなどのコスト削減を図るとありますが、例えば、銀行のＡＴＭコーナーや地元のスーパーなど高齢者の方も足を運ぶ場所でＰＲする形も良いと思います。

（会長）

定年退職して、ノウハウを持っておられる、あるいは技術や知識を持っておられる方がたくさんいらっしゃるので、やはりマッチングの問題が重要です。場合によっては、ＮＰＯ法人などを立ち上げて、やっていくということも必要なんでしょう。いろんなところで生活支援のＮＰＯが団地の中で、立ち上がってます。高齢者の人は、ポリ容器に残った灯油の処分など、ちょっとした生活支援をしてほしいそうです。

（委員）

平成28年度は何回、開催予定ですか。

（事務局）

平成28年度も１回を予定しています。まだ時期は未定です。

（委員）

工業団地は、日々動いているので、ニーズは随時出てくると思います。例えばシルバー人材センターみたいな形で登録制にしておいて、マッチングを図るということも考えると、実行委員４名だけでは、なかなか賄いきれない問題にもなると思います。

（会長）

回数も含めて広げていくことが必要ですよね。常時そういうことができるような場があれば。

（委員）

学生や若年者の雇用拡大を工業団地としてどう図るか、それを工業団地だけではなくて、市や商工会や団体と一緒になって、広くマッチングの取り組みをしようかという計画をしていますので、市の取り組みと合わせながら進めていけばいいかなと思います。

（会長）

ぜひ工業団地で、白井の人を雇ってほしいです。特にお母さん方、近くに預けて、工業団地に働きに行けるというふうになれば、これは効果的です。そういうことをアピールして、このまちへ若い人を呼び込むということが重要です。

（委員）

高齢者には、高齢者の「きょういく」「きょうよう」が大事だといわれますよね。「きょういく」は、「今日行くところ」、「きょうよう」は、「今日用があるところ」です。マッチングするときに、特別の技能を持っている人は参加しやすいが、そういうものがない人はなかなか手が上がらないと思いますが、そういう人にも何かあるんでしょうか。

（委員）

市と今相談はしているが、工業団地が活性化して、事業者もある程度収入を増えていかないと、雇用拡大がなかなか図れません。

それともう一つは、交通機関の問題です。今は車がないとほとんど働けないような状況なので、通勤形態が整備されることが必要です。そういう環境整備をしながら、工業団地を活性化していくと、技能者ばかりでなくて、いろいろ方々の雇用が拡大できます。

（会長）

このイベントをできれば何回か開催して、できるだけマッチングするようにすれば、望ましいということです。評価としては、極めて良好ということです。

⑧子育てスタート応援事業

【概要】

事務局から子育てスタート応援事業の担当課による評価内容を説明。

【意見等】

（会長）

これは、メールで配信するのですか。

（事務局）

そうです。スマートフォンのアプリです。

（会長）

若い世代はほとんどの人が使えるということですか。

（事務局）

そうです。

（高尾会）

メールすると保健師が答えてくれるのですか。

（事務局）

予防接種については、この日に受けたと登録すると、次の接種はいつですというお知らせが自動できます。子育て情報の配信については、悩みを相談し合うというよりは、保健師から、こういうときはこういうことに気をつけたほうがいいですよとか、そういう情報が随時送られてくるということです。悩みを相談する場合は、どうしても保健師に電話してもらうしかありません。

（会長）
全般的な子育てに関する情報が配信されることが重要と思います。
今後の課題としては、健康課だけでなく、他課も含めて配信した方がいいということですね。
（事務局）
そうです。子育てに関係する複数の課の情報を配信できたほうがいいというふうに考えています。
（会長）
この事業はおおむね良好ということで、今後の課題としては、健康課だけでなく、他課も含めて情報を充実していくことで、若い母親のニーズに応えていくとが求められているということです。

⑨ＰＲの推進
【概要】
事務局からＰＲの推進の担当課による評価内容を説明。

【意見等】
（委員）
実行委員の方のアイディアで、山形から雪を大量に持ち込んで雪山を作ったり、素晴らしかったと思います。特にマスコミが関心を持って、新聞ほとんど全紙が取り上げたりしたのも非常に良かったと思います。
（会長）
8,500人という来客数がありました。理由はどういうところですか。
（事務局）
事前に、マスコミに取り上げていただいたというのも、非常に効果としては大きかったと思います。また、フェイスブックでその情報を随時配信してたので、比較的若い世代に伝わったというところも大きかったと思います。やはり、フェイスブックでお知らせして、そこからの口コミが非常に大きかったのではないでしょうか。
（会長）
これだけの人が集まるということで、ＰＲということは非常に重要だと思います。そうすると、今度は平成32年からは協賛金の収入による自主運営というようなことになるわけですね。
（事務局）
はい。協賛金自体は、このときも集めてはいるんですが、１回目でイベント自体の認知度が低いので、なかなか多く集まりませんでした。継続することにより、フェスティバルを知ってもらう機会が増えますので、協賛金の収入が上がってくるということは見込んでいます。今年度は。協賛金プラス市からの補助100万円で開催できればと考えています。

（会長）
ふるさと大使はどうですか。なし坊とか、かおりを通じたＰＲ活動などはどうですか。
（事務局）
ホリさんがふるさと大使の１人ですが、知名度も高いですので、いろんなテレビに出演されたとき、白井市を話題にあげていただいているので、効果的だと思っています。
（委員）
こういう行事は、マスコミを通じて宣伝になって、非常に効果的だと思います。こういう取り組みを続けながら、どう市外にＰＲしていくか、どういうＰＲができるかということを考えていかないといけないと思います。市民が白井市が良いから住んでいるのであって、もう少し市外に呼びかけて、白井市はここにありというような戦略をつくっていくということも一つは大事かなと思います。それこそ、ふなっしーに負けないような白井の何かを市外に宣伝できるような工夫が必要です。
（事務局）
市では12月までにシティプロモーションの基本方針を策定する予定で、アンケート調査をしてみると、非常に認知度が低いということをまず感じました。この近隣でも、船橋や八千代市の人には認知度が低くなっています。まずは白井というところを知ってもらうことが必要で、現在どうやって知ってもらうかのＰＲポイントをこれから考えていこうと考えております。このイベントだけでなくて、あらゆる手段を使ってＰＲを進めたいということで、12月までに検討していきたいというふうに考えています。
（委員）
白井工業団地って言っても、どこにあるかわかんないと言われます。千葉県に行ったってそうなんです。柏の手前の沼南の手前ですよって言ったら、分かってもらえます。だからそういう点で、外に向かっての何か光るＰＲが必要です。
呼び方も、シライと言われます。シライではありません、シロイですって言いますが。
（委員）
逆にそういうネガティブな部分を表に出すというのも面白いんじゃないかなと、シライじゃありませんよ、シロイですよというように。
（会長）
こういう人を魅了するまちづくりは、いずれにせよ積極的に展開していくという必要です。ホワイトフェスティバルには、思わぬ人数が来来てくれたということで、これを積極的に伸ばしていく必要があります。今までの評価としては、極めて良好ということで、いいと思います。
また問題点としては、なし坊とかかおりを通じたＰＲを、もっとこう積極的にやっていく必要があるのかなと思います。今までのやり方よりも、何か別のやり方があるのではないでしょうか。
事業のよい点、悪い点については、ある程度、検証できたというふうに思います。審議会の意見として今、まとめていただいたということでよろしいと思います。
それでは、次の議題２、その他についてですが、事務局から説明ありましたらお願いします。

（事務局）

ありがとうございました。効果検証していただいたご意見を踏まえて、シートの６番のところに、この審議会としての意見を記載させていただき、委員に確認していただいた後、公表という形をとりたいと思います。公表については、市のホームページや議会への情報提供ということで考えております。また、合わせて内閣府へも意見を提出したいと思います。

次回ですが、現段階では案件の想定がありませんので、また何か国や市の新しい動きがありましたら、日程調整の上で、開催させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

４　閉会

（会長）

それでは、本日の議題はこれで終了しました。これをもちまして、平成28年度第１回白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。